

**<かき> ハダニ類**

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
マイトコーネフロアブル	I:20D	収穫7日前まで	1回	散布

**<かき> カンザワハダニ**

1. コテツフロアブルは着色期には使用しない（薬害）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル		収穫14日前まで	2回以内	散布

**<かき> ナミハダニ**

1. コテツフロアブルは着色期には使用しない（薬害）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コテツフロアブル	I:13	収穫14日前まで	2回以内	散布

**<かき> カキサビダニ**

1. 四ツ溝では発生が多い。
2. 開花～幼果期に防除を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
サンマイト水和剤	I:21A	収穫14日前まで	2回以内	散布
ピラニカ水和剤	I:21A	収穫21日前まで	1回	散布

**<かき> アザミウマ類**

1. カキクダアザミウマの発生園では冬期に粗皮を削り、処分して越冬成虫の密度を下げる。
2. カキクダアザミウマでの薬剤散布は周辺のマツ、スギなどの樹木や、カキの粗皮下で越冬した成虫が飛来する展葉期と、幼虫が発生加害する幼果期の2回行なう。
3. チャノキイロアザミウマは、次郎は6月下旬、四ツ溝は7月下旬まで加害する。
4. コテツフロアブルは着色期には使用しない（薬害）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫3日前まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫7日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	収穫7日前まで	2回以内	散布
コテツフロアブル	I:13	収穫14日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

**<かき> チャノキイロアザミウマ**

1. 開花初期から次郎は6月下旬、四ツ溝は7月下旬まで加害される。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布

**<かき> カイガラムシ類**

1. ツノロウムシ幼虫は、多発によって、すす病の発生が予想される場合に防除する。通常は7月下旬の1回散布が良いが、激発時には7月中旬と8月上旬の2回散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリオン水和剤40	I:1A	収穫21日前まで	1回	散布
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

**<かき> コナカイガラムシ類**

1. カメムシ類の防除に合成ピレスロイド剤を用いると発生が多くなるので注意する。
2. 6月下旬を重点にいていねいに散布する。
3. ワラを樹幹に巻き、越冬虫を集めた後、冬期にはずして処分する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫3日前まで	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布

**<かき> フジコナカイガラムシ**

1. 薬剤、注意事項についてはコナカイガラムシ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布

**<かき> カメムシ類**

1. 6月中旬～7月は越冬成虫が対象で、8月～10月は園外のスギ、ヒノキなどからの飛来成虫が対象となる。
2. 年によって発生量・発生時期の変動が大きいので、発生予察情報に注意する。
3. 前年秋の発生が多い場合に越冬量が多くなるので、6～7月の発生に注意する。
4. スギ・ヒノキの穂果が多い年は8月下旬以降の発生が多くなる。
5. カメムシ類の防除を多数回行うとコナカイガラムシ類の発生が多くなるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫3日前まで	3回以内	散布
アグロスリン水和剤	I:3A	収穫前日まで	3回以内	散布
アディオナ乳剤	I:3A	収穫7日前まで	5回以内	散布

アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫7日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
キラップフロアブル	I:2B	収穫7日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
テルスターフロアブル	I:3A	収穫3日前まで	2回以内	散布
ロディー水和剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布

#### <かき> コガネムシ類

1. 主にドウガネブイブイ、マメコガネ、ヒメコガネが発生する。6月下旬～7月下旬の発生が多い場合に防除する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布

#### <かき> ドウガネブイブイ成虫

1. 6月下旬～7月下旬の発生が多い場合に防除する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン水和剤40	I:1B	収穫30日前まで	3回以内	散布

#### <かき> ケムシ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アディオン水和剤	I:3A	収穫7日前まで	5回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫21日前まで	1回	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫7日前まで	2回以内	散布

#### <かき> ハマキムシ類

1. 例年被害果の認められる園では、防除を実施する。
2. 7月中旬～下旬、8月中旬、9月下旬に防除を行う。
3. フェロモントラップによる成虫誘殺消長から防除時期を決定することができる。
4. 茶の発生予察情報を参考にする。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリオン水和剤40	I:1A	収穫21日前まで	1回	散布
サムコルフロアブル10	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
テッパン液剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫7日前まで	2回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ロディー水和剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布

#### <かき> チャノコカクモンハマキ

1. ハマキコン-Nは1ha以上のできるだけ広い面積で使用すると有効である。詳細は「生物的防除法 3. 交信攪乱剤による防除方法」の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ハマキコン-N ※1		成虫発生初期～終期	-	本剤を枝にかける

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

#### <かき> チャハマキ

1. ハマキコン-Nは1ha以上のできるだけ広い面積で使用すると有効である。詳細は「生物的防除法 3. 交信攪乱剤による防除方法」の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ハマキコン-N ※1		成虫発生初期～終期	-	本剤を枝にかける

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

#### <かき> カキノガ

1. 第3、第4世代の発生が最も多くなるので、これらを中心に防除する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン乳剤	I:1B	収穫30日前まで	3回以内	散布
パダンSG水溶剤	I:14/F:U19(U)	収穫45日前まで	4回以内	散布

#### <かき> ヒメコスシハ

1. 富有、伊豆など粗皮の粗い品種に寄生が多い。
2. 粗皮けずりは枝の分岐部を重点に行う。
3. 薬剤散布は枝幹に十分かかるように丁寧に行う。降雨後で樹皮が若干ぬれている時の方が付着がよい。
4. ガットサイドS、トラサイドA乳剤の処理は6月上旬に行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
トラサイドA乳剤	I:1B	産卵期～幼虫食入初期(但し、収穫30日前まで)	2回以内	樹幹部に十分散布
ガットサイドS	I:1B	産卵期～幼虫食入初期(但し、収穫45日前まで)	2回以内	主幹部、主枝及び亜主枝の分枝部に塗布
スカシバコンL		成虫発生初期～終期		デispenserを対象作物の枝に巻き付け設置する。

#### <かき> カキノヘタムシガ

1. 被害果は果梗基部から摘み取り、内部の幼虫を捕殺する。
2. 6月中旬、8月中旬に防除を行う。

3. 8月下旬にワラを樹幹に巻き、越冬虫を集めた後、冬期にはずして処分する。  
 4. 12～2月に粗皮削りを行い越冬幼虫の密度を下げる。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫3日前まで	3回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫21日前まで	1回	散布
サムコルフロアブル10	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
テッパン液剤	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫30日前まで	3回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫7日前まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布

**<かき> イラガ類**

1. 集合している若齢幼虫期に防除する。  
 2. 6月中旬～下旬（第1世代）と8月下旬～9月上旬（第2世代）の幼虫期に防除する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリオン水和剤40	I:1A	収穫21日前まで	1回	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫30日前まで	3回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫7日前まで	2回以内	散布

**<かき> カキノキマダラメイガ**

1. カキノキマダラメイガは、クロフタモンマダラケイガ、フタモンマダラメイガの別名。  
 2. 太枝の切り口で接ぎ木部に加害が多く、品種間差もみられる。  
 3. 5月上旬～8月中旬に毎月1回薬剤を枝幹部に処理する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ガットサイドS	I:1B	産卵期～幼虫食入初期 (但し、収穫45日前まで)	2回以内	主幹部、主枝及び垂主枝の分枝部に塗布

**<かき> フタモンマダラメイガ**

1. フタモンマダラメイガは、カキノキマダラメイガ、クロフタモンマダラメイガの別名。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
サムコルフロアブル10	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
パダンSG水溶剤	I:14/F:U19(U)	収穫45日前まで	4回以内	散布

**<かき> ハスモンヨトウ**

1. 9月～10月に発生が増加する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オリオン水和剤40	I:1A	収穫21日前まで	1回	散布

**<かき> うどんこ病**

1. 本病は富有、次郎には発病が少ないので、通常の場合5月の散布は上旬1回のみでよい。  
 2. 9月上旬の散布は、それ以前に発病が認められる場合に限って行う。  
 3. ベルクートは、西村早生では葉害が発生するので使用しない。  
 4. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はキノドー、ドキリンの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アンピルフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
キノドーフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ベルクート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布

**<かき> 疑似炭疽病**

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	6回以内	散布

**<かき> 黒星病**

1. 2月の剪定前に罹病枝を切除して土中に埋没する。  
 2. 春の防除は、新葉が5～6枚開いた頃から行う。  
 3. ベルクート水和剤の5月散布はすす点病にも効果がある。  
 4. ベルクート水和剤は西村早生では使用しない（葉害）。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベルクート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
石灰硫黄合剤	I:UN/F:M02(M)	-	-	散布

**<かき> 炭疽病**

1. 富有、伊豆は抵抗性がないので、これら品種では必ず散布する。次郎は比較的抵抗性があるが、発生が認められる場合には薬剤を散布する。四ツ溝は抵抗性があるため、通常は防除を必要としない。
2. 薬剤の散布は降雨直前をねらって行う。
3. 発病果実は伝染源となるので、集めて土中に埋める。
4. 2月の剪定時に罹病枝を剪除して処分する。
5. 次郎、四ツ溝にはエムダイファー水和剤、ジマンダイセン水和剤、ストロビードライフロアブル、ベンレート水和剤を使用する。
6. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファー、オーソサイド、キノンドー、ドキリン、ジマンダイセン、ペンコゼブの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫45日前まで	2回以内	散布
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
キノンドーフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫45日前まで	2回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫45日前まで	2回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	6回以内	散布

**<かき> 灰色かび病**

1. ベルクート水和剤は、西村早生では葉害が発生するので使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ベルクート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布

**<かき> 落葉病**

1. 病原菌は落葉上で越冬するので、10～12月に落葉を集めて土中に埋める。
2. ベルクート水和剤は西村早生で葉害が発生するので使用しない。
3. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファー、オーソサイド、キノンドー、ジマンダイセン、ドキリン、ペンコゼブの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター10フロアブル	F:11(C3)	収穫7日前まで	3回以内	散布
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫45日前まで	2回以内	散布
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	収穫7日前まで	5回以内	散布
オンリーワンフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
キノンドーフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫45日前まで	2回以内	散布
スクレアフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
パスポート顆粒水和剤	F:M05(M)	収穫30日前まで	3回以内	散布
ベルクート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫45日前まで	2回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	6回以内	散布